

授業科目 中枢神経系治療学

【担当教員名】 星 孝 他	対象学年	3	対象学科	理学
	開講時期	前期	必修選択	必修
	単位数	2	時間数	30

【カリキュラムポリシーとの関連性】

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	◎	◎	◎

【概要・一般目標：G10】

中枢神経疾患の病態や介入時期の違いによる理学療法を理解し、必要な検査・評価項目を検討し選択したうえで治療方法への展開を説明できる。

【学習目標・行動目標：SBO】

1. 脳卒中片麻痺患者について急性期、回復期、維持期に応じた障害像が説明できる
2. 脊髄損傷者の障害像について説明できる
3. 脳卒中片麻痺患者の合併症と予防の重要性を説明できる
4. 脳卒中患者の機能検査を列挙し説明できる
5. 脳卒中患者のリスク管理の重要性について検討し、説明できる
6. 脳卒中患者の症状を評価し、治療計画を立てることが出来る
7. クループワークにおいて積極的に取り組み、オリエンテーションが適切に行える
8. 中枢神経疾患に必要な検査・評価項目を選択したうえで治療展開へ結び付ける能力を評価の対象とします

回数	授業計画・学習の主題	SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	脳卒中治療の流れ	1～6	講義、担当：星 孝
2	超急性期の脳卒中医療とリハビリの展開	1～6	講義、担当：星 孝
3	急性期の脳卒中医療とリハビリの展開	1～6	講義、担当：星 孝
4	全身管理を考慮した理学療法の展開	1～6	講義、担当：星 孝
5	離床へのガイドライン	1～6	講義、担当：星 孝
6	脳卒中ケースに対する運動療法 1	1～6	講義、担当：星 孝
7	症例を通じた検討（PBL） 1	6, 7, 8	講義、担当：星 孝
8	脳卒中ケースに対する運動療法 2	1～6	講義、担当：星 孝
9	症例を通じた検討（PBL） 2	6, 7, 8	講義、担当：星 孝
10	脊髄損傷の理学療法（1）	2	講義
11	脊髄損傷の理学療法（2）	2	講義
12	運動失調を伴うケースに対する運動療法	6, 7, 8	講義、担当：星 孝
13	症例を通じた検討（PBL） 3	6, 7, 8	講義、担当：星 孝
14	加療時期による理学療法的治療展開の違い	6, 7, 8	講義、担当：星 孝
15	症例検討を通じた治療学総括（病態と障害像と評価）	6, 7, 8	講義、担当：星 孝

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)	脳卒中最前線 第4版	藤田勉 他	医歯薬出版	2009・9,240円
参考書	ステップス・トゥ・フォロー 改訂 第2版	P.M. デービス	丸善出版	2012・5,040円
	病気がみえる Vol.7 脳・神経	医療情報科学研究所	株式会社 メディック メディア	2011・3,800円
	リハビリテーション リスク管理ハンドブック 改訂第2版	亀田メディカルセンター	株式会社 メジカル ビュー社	2012・4,410円
その他の資料				

【評価方法】

単位修得規程の出席条件に満たないものは、本科目試験の受験は不可とする。
授業時の態度、グループ討議参加度（発言度も含む）、期末試験の総合評価とする

【履修上の留意点】

実技の授業展開になるときがあるので、動きやすい服装で参加すること